

温泉100選ランクアップ企画

那須塩原の観光力強化

インタビュー

観光は市の基幹産業

DCの宿泊客増加

食の4企画に好反応

観光経済新聞社主催の「につぼんの温泉100選」で、旅行会社の支持を得て着実にランクを上げているのが栃木県那須塩原市の塩原、板室両温泉だ。「観光は市の基幹産業の一つ」という君島寛市長に、観光に賭ける思いを聞いた。聞き手は論説委員の内井高弘。

(市長室で)

市長になって2年半ほどが経ちますが、観光に対する思いに変化はありませんか。

「観光は農業とともに市の基幹産業だが、今後その考えが変わることはない。観光産業は裾野が広く、ここが元気になれば雇用も生まれ、市の経済も活性化する」

就任後どんな観光施策を行ってきたか。

「就任前の2015年に『那須塩原市観光局』が設立され、官民一体となった観光振興体制が出来上がった。その流れを止めないよう、継続性を重視してきた。また、就任後間もなく、18年4～6月に栃木県でデスティネーションキャンペーン(DC)を開催することが決まった。市の観光をアピールする絶好の機会と捉え、市の新たな観光魅力の創出と受け入れ態勢の充実に取り組んできた。そういった中で、観光局の木下(昭彦)局長の力が大きかったと思う」

観光客の入り込みはいかがですか。

「入り込み数は年間1千万人ほどで推移している。17年の入り込み数は前年比4・1%減ったが、宿泊客は伸びており、同2・3%増となった。夏休みや紅葉シーズンに台風など悪天候に見舞われたのが痛かった。現在、9割ほどが日帰り客だが、市としてはやはり宿泊客が増えてくることが望ましい。首都圏から近いというのが売りだが、アクセスが良すぎるのも考えものだ(笑)。宿泊施設の魅力やもてなしの内容を充実させるなどして、泊まってみたいと思わせる観光地になければならない」

DC直前から、JRの各駅には栃木県のものだけでなく、市のDCの取り組みに関するポスターを数多く掲示していた。これは市の取り組みがJR駅に選ばれたものと考えている。一方、観光客は9割の方が車を利用されている。駅などでの観光魅力を知った方が夏休みなどの機会に訪れてくることを期待したい」

先ごろ、「那須野が原開拓浪漫譚」が日本遺産に認定された。また、「那須塩水」は世界かんがい施設遺産ともなっています。市にとって新たな観光素材となりそうですね。

「これまで、良質な温泉や美しい豊かな自然、おいしい食などを中心に売り込んできた。歴史的に価値のある素材はたくさんあったのだが、観光素材としてほとんど活用しなかった。これは反省しなければならぬ(笑)」。市民にもこんな素晴らしい施設があるんだということを知ってもらえるよう、アピールしていく」

DCでは那須塩原市のポスターがやけに目立っています。

「4～6月に1億5千万DCが実施されましたが、成果はいかがでしたか。」

「17年のフレンドでは『朝食・ピジョン物語』『ちびと食』がテーマで、DCでは『朝』がテーマでしたが、成果はいかがでしたか。」

栃木県那須塩原市長 君島 寛さん

きみじま ひろし 1971年4月、黒磯市職員として採用。那須塩原市総務部長兼黒磯支所長、企画部長、副市長を経て、2016年1月から現職。旧黒磯市出身、70歳。座右の銘は「意思あるところ道は開ける」。



「日本遺産は那須塩原、大田原、矢板、那須の4市町共同での認定となっている。市町ごとに観光に対する考え方は異なっている、どのような方向性でPRしていくか、調査分析を経て、『日本遺産活用推進協議会』で検討する予定だ」

「市としては温泉地を中心に訪れる観光客に、那須野が原の歴史も楽しんでもらい、より滞在時間を長く、またリピーターになっていただけるよう日本遺産を生かしていきたいと考えている」

日本遺産はともかく、那須塩水はちょっと地味ですね。

「その方面に興味のある人は足を運ぶだろうが……。ただ、那須塩水は福島のアリカ排水、京都の琵琶湖排水とともに日本3大排水といわれる。やり方次第だ」

18年度の観光の重点施策は何でしょう。また、観光予算はどのくらいですか。

「この10年はDC本番だった。この10年に向けた取り組みが重点施策だった。観光予算は観光振興・観光施設の管理など概ね4億2千万円となっている」

18年度は市の観光基本計画の策定に着手する予定だ。これまで、観光の専門組織として観光局を立ち上げ、次々に事業を展開してきましたが、改めて観光ビジョンや推進体制などを整理し、今後更なる観光振興が市の成長戦略となるよう関係者一帯有していきたい。20年度を初年度として、5～7年のスパンで実施していく」

下期に向けてはどんな取り組みを。

「秋の紅葉シーズンに向け、イベントや祭りを計画している。また、DCをアピールした4コンテンツをさらにブラッシュアップし、市ならではの食と通年で提供していく。その他、差別化を図るための交通対策も試行する計画ももっている」

改めて市の観光魅力をつかいたい。

「何といっても温泉だ。塩原や板室など、歴史ある良質な温泉は市が誇る大きな観光資源だ。また、日光国立公園をはじめとした豊かな自然、日本遺産の那須野が原開拓に始まる農業や酪農による豊かな食、新幹線駅や高速道のインターがあり、アクセスがよい(笑)」

観光局の存在は市の観光振興にとって欠かせないと思います。どんなことを期待しますか。

「温泉や食、自然や歴史などの観光資源を、観光客に味わっていただくための仕組みを作り、観光地としての魅力を効果的に伝えてほしい。消費者から選ばれる、『また来たい』と思える魅力ある観光地づくりは多くの関係者が関わって進めていかなければならず、その中核機関としての役割も期待している」

法人格を取得し、営利事業も行えるようになった。専門的な知見や地域事業者などとのネットワークを駆使し、市内の経済効果を高める取り組みもしてほしい。注文ばかりだがそれだけ期待している。市も観光局(一)体となって市の経済発展に尽くしてほしい」

日本遺産などアピール

観光基本計画策定を

観光局に大きな期待

半日バスツアー

那須塩原の観光スポットを効率よく回ってもらうこと、那須塩原の魅力の一つは何か、観光局が実施しているのが半日バスツアーだ。紅葉、日本遺産、パワースポットなどを巡るさまざまなツアーが企画されており、塩原、板室両温泉での宿泊と組み合わせて利用すれば充実した旅となる。

観光スポット

効率よく見学

「今、最高の紅葉を案内、錦秋の紅葉ツアー」(10月13日～11月26日の計22日間実施)は、紅葉のベストポイントに案内するほか、千本松板場や明治の森黒磯を散策する。12月1～25日の期間、計13日間実施する。

午前便と午後便の二つのルートを設定。1人あたりの料金は中学生以上2千円、3歳小学生千円。前日午後5時まで観光局に申し込む。

また、「日本遺産と明治時代の歴史探訪 初冬の那須塩原巡り」もこれからの季節にピッタリ。こちらも午前便と午後便があり、青木別邸や陸軍大将・乃木希典の別邸が残る乃木神社などを散策、見学する。12月1～25日の期間、計13日間実施する。

那須塩原の魅力引き立つ

温泉と秋の紅葉

那須塩原の観光を代表するのが温泉と紅葉だ。ここではその魅力を写真で紹介する。

温泉は、半径5キロ以内150もの源泉があり、毎分1万リットルの湯が湧出している。10種類ある温泉の泉質のうち実に6種類の泉質が単純泉、炭酸水素泉、硫酸塩泉、塩化物泉、硫酸塩泉、酸性泉、がそろう、全国的にも珍しい温泉地だ。また、7色温泉、乳白色、黒色、薄黒色、透明、緑白色、黄白色、茶褐色)でもあり、その日の気分で好きな色の温泉を楽しめる。

自然の豊かさを実感できるのが秋の紅葉シーズンだ。全長320メートルの無補脚歩道吊り橋としては本州一の長さを誇る「もみじ谷大吊橋」は雄大な景色と紅葉が楽しめる。塩原も吊橋の近くにある「紅の吊橋」は塩原特有の美しさで知られている。また、大山元帥墓所に通じる参道に植えられた、樹齢約90年のイロハモミジの並木道も必見。



- ① 紅の吊橋。圧巻の美しさだ
- ② 大山参道の紅葉。紅葉のトンネルに目が奪われる
- ③ 雄大な景色のみみじ谷大吊橋
- ④ ほたるの湯の露天風呂
- ⑤ 紅葉を愛でながらの入浴は格別



制作協力(一社) 那須塩原市観光局

TEL: 0286-22-1111 FAX: 0286-22-1112

E-MAIL: info@nashu-kankou.jp

URL: <http://www.nashu-kankou.jp>